別紙様式1

令和5年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）　　学校名　三原市立沼北小学校　　校番（ 11 ）

a 学校教育目標	かしこく やさしく　たくましく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　児童の地域への愛着を育て、生きる力の基礎を育成する 【ビジョン】（自校の将来像）　児童が自分に自信を持ち、地域・保護者から信頼される学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力の育成	「見方・考え方」を働かせ、探求的に学習する力を育てる	○基礎的・基本的な知識・技能の定着	○NRT・全国学テの課題を基にした授業改善 ○低学力層（50点以下）を対象とした学力補充・帯タイムの充実と情報共有	①単元テスト（国・算・理）平均点 ②国語科学期末テスト（初見問題）において全国平均以上の児童の割合 ③単元末再テストで正答率70%以上	①80% ②70% ③100%	①86.1% ②69.1% ③ 59.6%		89%	B	①3教科についてNRT分析で明らかになった課題をもとに、児童が基礎的・基本的な知識・技能を習得することのできる授業を各学年で展開した。 ②テストを昨年度よりも長文のものにすることで身に付けた見方・考え方を活用する場を設定した。中学年については達成度がどちらも70%未満であった。 ③テスト実施後に個別指導をおこなった上で再テストを実施することで目標を達成することができた児童が半数以上を占めたものの、一部の低学力層について、全く達成できない児童が見られた。	①引き続き帯タイムにおいてアシストシートを活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ②単元テスト実施前に十分に活用・演習の時間を設ける。特に低学力層の学力向上のため、個に合わせた家庭学習の設定や帯タイムなどでの学力補充をすることで、個別最適な学びを実現させる。 ③算数科に関して，学力補充学習に関する校内スケジュール表を作成し，担任・管理職・主任等，一体となった取組を進める。	4			○引き続き、基礎学力・基礎知識の育成、向上をお願いしたい。 ○読書活動について、小中での連携した取組を行えたらよいと思う。 ○授業に向かう教職員の表情がよく、児童も集中して学習できている。 ○児童それぞれの実態に合わせた手立てを行い、授業に参加できる取組を行われていることが分かった。
		○主体的・協働的な学びによる深い学びの実現	○「探究的・協働的で深い学び」を導く「問い」を追求し、「見方・考え方」を働かせる授業改善を進める。 ○授業をファシリテートする力を高め、思考につながるICT端末を効果的に活用し、「深い学び」や「個別最適な学び」を促す授業つくりを進める。	①単元末児童アンケート肯定的評価の割合 ②授業参観者アンケート肯定的評価の割合	①85% ②85%	①91.8% ②85.4%		104%	A	①国語科の単元終了時に4つの項目についてのアンケートを全児童に対して実施し、身に付けさせたい見方・考え方を児童と共有するとともに、授業者が問いを意識した授業を展開し、授業改善に繋げた。 ②他の教職員の授業から、具体的なファシリテートの姿を整理し、その効果について共有するとともに各学級で実践するための手立てを協議した。また、研究主任が出した研究だよりを活用して授業改善を行った。	①単元の初めに単元終了時に目指す姿を児童と共有し、児童が見通しを持って活動に取り組むことができるようにする。 ②学期ごとの研究授業や研究主任による授業公開、管理職によるフル授業参観などから、具体的なファシリテートの姿をさらに蓄積していく。	4			
豊かな心の育成	自らに自信をもち、積極的にチャレンジする気持ち、また他者と関わり合いながら共に伸びようとする意欲を高める	○自分のよさに気づき新たな目標に向かう児童、他者と関わり合いながら共に伸びる児童の育成	○挨拶を核にした「沼北5」の徹底を図り、「自信（チャレンジする心）」と「かかわり合う力」を更に高める取組を進める。	①挨拶についての児童アンケート肯定的評価の割合 ②地域の方への挨拶についてのアンケート肯定的評価の割合	①85% ②85%	①91.5% ②94.9%		110%	A	①朝会時に児童会に挨拶の見本を示してもらい、全校で「気持ちの良いあいさつ」を確認した。また、廊下に写真や言葉で具体を示すことで、児童も意識して取り組むことができている。（児童アンケート肯定的評価91.5%） ②児童同士、教師からの評価、地域の方からのアンケートを行い1学期末に表彰(評価の高い8名)を行った。また、2学期には給食時間に児童会が、1学期に行った挨拶アンケートのコメント放送をしている。	①12月に1学期同様のアンケートを行い、終業式に表彰を行う。 ①表彰をすることで、友達のよいところに気づいたり、気持ちのよい挨拶の姿を意識したりすることができるようにする。 ②今後も、児童に還元し「自信」と「かかわり合う力」を高めていくために、アンケートに記入されているメッセージを放送したり表彰したりすることを継続する。	4			○体験や交流を深めながら、感性豊かで相手の気持ちを考える心の育成を期待する。 ○通学時のあいさつもよくなってきた。毎朝の登校様子を見ても、児童が楽しく通っている。地域ではあいさつがよく返ってくる。中学生も挨拶をしてくれており、小学校で培った力だと思う。 ○横断歩道で児童を渡らせてあげると，「ありがとうございます。」と帽子をとって挨拶してくれた児童がいた。こんなあいさつのできる子どもたちを沼北小で育成していただきたい。 ○体育参観日後のスポーツイベントはとても良かった。家族・地域の人にたくさんの笑顔が見られていた。
		○地域の文化や伝統に誇りをもち、感謝する心の育成	○地域の文化や伝統に誇りをもち、感謝する心の育成	①地域連携・地域ゲストティーチャーの導入回数各学年、年間3回以上 ②児童アンケート「地域が好き」「地域のことを知っている」肯定的評価の割合	①100% ②85%	①52.4% ②94.9%		82%	B	○1学期のゲストティーチャー招聘は目標値に対して52.4%達成した。後期にもそれぞれの学年でゲストティーチャー招聘を計画されており、地域のことが好きな児童を引き続き育てていく。 ○「地域のことが好き」「地域のことを知っている」というアンケートでは94.9%の児童が肯定的な評価をしており、地域の方との関わりが地域への愛情につながっている。 ○体育参観日後に校区民スポーツ交流会を通して、地域に支えられていることを実感できた。	①②計画的にゲストティーチャーを招聘し地域とかかわり合うことで、地域の文化や伝統に誇りをもち、感謝する心を育てる。（計画では、年間3回以上達成できる。）	4			
健やかな体の育成	運動に親しみ、健康の保持増進に努める主体的な態度を養う	○運動に親しみ、体力を高めようとする態度の育成	○運動の楽しさを知り、自ら進んで運動に親しむ児童を育成する取組を継続する。特に「走力」を高める。ACP（アクティブチャイルドプログラム）を取り入れる。	①「走のACP」実施率 ②50m走の記録5月よりアップした児童割合 ③児童アンケート「運動することが好き」肯定的評価の割合	①80% ②85% ③85%	①35% ②53% ③84.7%		69%	C	①走のACPを全校で実施している。前期には水泳指導や体育参観日に向けての練習もあり35%の実施率にとどまった。年間で掲げている目標に到達し、児童が運動に親しむことができるよう全校で引き続き取組を進めていく。 ②1学期の朝ランや体育参観日に向けた走の運動により50m走の記録が5月よりアップした児童は53%だった。後期も朝ランを計画的に進め「走力」高めていく。 ③夏季休暇中に授業で取り入れられる走のACPを教員を対象に実技研修を行った。	①体育科の授業の導入で走のACPを取り入れ、全学年で引き続き取り組むことで、運動に親しみ走力を高める。 ②計画的に朝ランを実施し2月の持久走大会へ向け、長距離を走りぬく力を高める。 ②2月にも50m走の計測を行う。 ③生徒指導部が保護者への通信を発行し、家庭でもできるACPを紹介する。	4			○基礎体力と体つくりをお願いしたい。 ○コロナにより、活動が低下していることもあるが、体力・運動能力の向上は、少し長い目で見ることも必要だと思う。 ○アウトメディア週間は五中ブロック全体で取り組めるとよいと思う。
		○自らの健康を保持・増進しようとする態度の育成	○健やかな体部を中心にして健康(生活習慣等)に関する日常生活の中での恒常的な取組を推進し、生活習慣アンケートや生活ふり返り週間を実施する。 ○西部共同調理場や学校栄養士と連携し健康を保持増進しようとする態度を育てる。	①毎日2回以上歯磨きをしている児童の割合 ②目標時刻までに就寝ができている児童の割合	①85% ②85%	①85.7% ②73.7%		94%	B	○「生活ふりかえりカード」や「生活ふりかえりアンケート」で、児童の生活習慣の実態調査を実施し、保護者と連携しながら児童への声掛けや生活習慣に関する保健指導を行った。 ○西部共同調理場の学校栄養教諭や学校歯科医と連携し、参観日や授業などで食育指導や歯科教育の指導を実施した。	○健康(生活習慣等)に関する日常生活の中での恒常的な取組を推進し、生活習慣アンケートや生活ふり返り週間を実施するとともに、睡眠についてや生活習慣についての保健教育を実施する。 ○アウトメディア週間を取り入れ、生活習慣を意識させる指導を行う。 ○西部共同調理場の学校栄養教諭や学校歯科医と連携し、食育指導や歯科教育を実施する。	4			
信頼される学校	家庭・地域との連携を大切にし、安心・安全な学校、信頼される学校を創造する	○地域と学校の連携・協働、そして地域の力を活用した学びの推進	○地域・保護者との連携を深め、協力体制を構築する。 ○児童の成長や教育活動の様子を積極的に地域・保護者に伝え、教育活動への理解を得る。	①学校評議員・関係者評価委員アンケート：「よい学校にしようと頑張っている」、「地域を愛する子どもを育成しようとしている」、「地域と一体となった教育活動を進めている」 ②保護者アンケート「学校の様子が学校・学級通信やトピックスによってよく分かる。」肯定的評価	①88% ②92%	①100% ②95.1%		109%	A	①学校評議員・学校関係者評価委員さんに参観日や各種行事等への参加の際に、学校・教職員の様子を見ていただいたいた。アンケートは肯定的評価であった。 ②保護者アンケート「学校の様子が学校・学級通信やトピックスによってよく分かる。」は目標値を達成しているが、3件の否定的意見があるため、マイナスの回答をされた保護者に直接理由を伺い、改善を図りつつある。	①児童の実態や課題を明確にし、課題に向けた教育活動の充実を図るとともに、引き続き地域と一体となる教育活動を進める。 ②授業内容等について「すぐーる」を活用し、学校だより以外の内容を定期的にトピックスとして発行し、児童の成長や教育活動の様子を配信する。	4			○今までのように、保護者や地域の方と信頼関係を深めていただきたいと思う。 ○敬老会や町内会行事など，学校・地域・家庭の顔がつながるように，工夫している。 ○業務改善にむけ、学校行事の内容や時期の見直しを行うとよいと思う。
		○業務改善を進め、協働して課題解決に向かう教職員集団の確立	○校務分掌を改編し教職員の協働体制を更に確立するとともに、教頭を中心に業務改善を進め、「限られた時間の有効活用」を意識した、柔軟な働き方改革を充実させ、信頼される学校を創造する。	○職員の1か月の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間 平均45時間以内	100%	100%		100%	A	○職員の退校平均時間は45時間を下回っている。短縮授業や計画的な研修により、教職員の教材研究や事務処理の時間を確保してきた。	○短縮授業と計画的な研修に加え、教職員の負担軽減が可能な業務を検討し、職員の協力体制やICTを活用することで業務の軽減を図る。	4			

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。